SANJO ROTARY CLUB
三条ロータリークラブ 週報 No. 42
2013. 5. 22（No.2733）

第2560地区ガバナー／鈴 木 重 壱
会　　長／杉 山 幸 英
会長エレクト／丸 山 行 彦（クラブ奉仕A）
副　会　長／高 橋　　司（クラブ奉仕B）
幹　　事／若槻八十彦
S　A　A／西 山 徳 芳
会　　計／小出子恵出

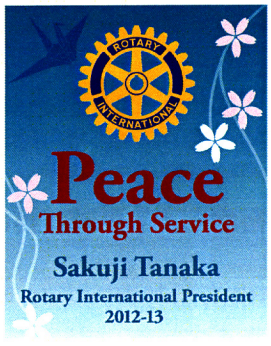
例会日／毎週水曜日12：30～
例会場及び事務局／
　三条市旭町2-5-10　三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477　FAX 32-7095

E-mail：sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http：//www.soho－net.ne.jp/~rotary/
（~はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください）

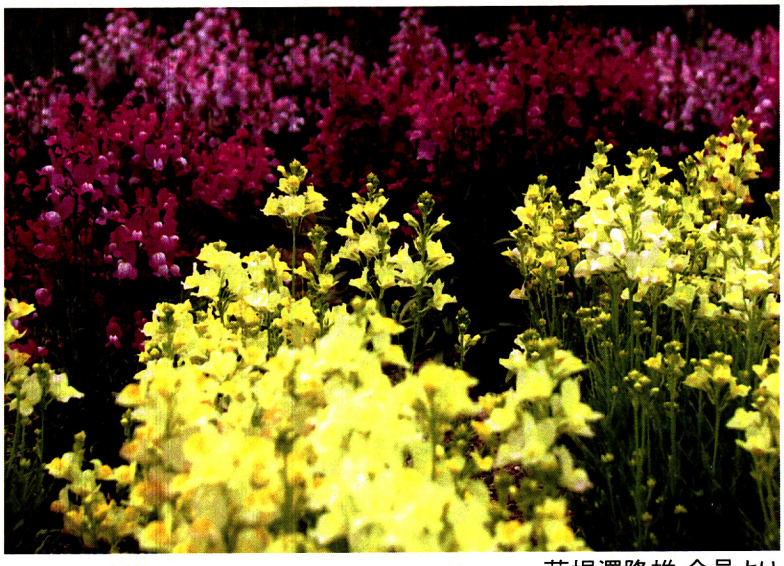
■本日の出席会員数：57名中35名
■先々週出席率：89.29%

【ゲスト】
・小林研業　小林一夫 様

【先週のメークアップ】
［5.11］白根RC創立50周年式典へ
・杉山幸英さん、　若槻八十彦さん
［5.16］三条ローターアクトへ
・渡辺良一さん
［5.18］次年度第4分区会長・幹事会へ
・丸山行彦さん、　船越正夫さん
［5.18］米山奨学生オリエンテーション（新潟）へ
・関川　博さん
［5.21］三条北RCへ
・斎藤弘文さん、　藤田紘一さん、
・小越憲泰さん、　阿部吉弘さん、
・中村光一さん、　渡辺勝利さん、
・加藤紋次郎さん、中村和彦さん、
・熊倉昌平さん　（9名）



「奉仕を通じて平和を」
2012～2013年度国際ロータリーのテーマ


荻根澤隆雄 会員より

会 長 挨 拶

杉山幸英 会長

皆さんこんにちは、挨拶申し上げます。

三条祭りも無事終わり、5月らしいお天気になりました。小林研業の小林様ようこそおいで下さいました。ごゆっくりお過ごし下さい。又後ほど卓話を宜しくお願い致します。

先日、家に帰りましたら（毎日家には帰っております）テーブルの上に、一冊の本がのっておりまして、表紙を見ましたら「家に帰ると妻が必ず死んだふりをしています」の題名でした。その時は、素通りをしまして夕食後に妻に聞いてみましたら、もう本は読んだと言う事でしたので私も読んでも良いかと聞きましたら“どうぞ”と返事が返って来ました。

本の内容は、ユニークな夫婦2人の日常生活を漫画にしてブログに載せたもので、ブログの動画は110万回再生突破、「ほぼ日P」の楽曲でCDも出ていると言うことです。1回目は、家に帰ると玄関に妻が倒れておりました。初めは大変驚きました。2回目は首に紐を巻いて絞殺、3回目は口から血を流しており毒殺、4回目は胸から血を流して刺殺、次は矢が頭を貫通していたり、その次は銃を抱えた間々名誉の戦死をとげていました。他にも色々ありまして、目立つ所では「妻が自宅でソープランドを始めました」結婚式等で出費が多かったので妻は家計の為にソープランドを始めました。妻はお風呂の入口で待っており、何にしましょうと言うので主人「ソープランドって何をするとこか知ってるの」妻「洗ってくれるお風呂でしょう」

と料金表を見せました。主人「僕からお金を取っても家計の中で回るだけでしょ」妻「じゃ外でやります」主人「それは止めてください」主人「それでは客になります」終わって、主人「本当にお金を取るの。じゃツケで」ほぼ毎日有りましてその月の給料日、お小遣いから天引きされていました。こんな楽しい仲の良い夫婦生活も良いと思いますが、私の家庭ではほど遠い話です。皆様の家庭はいかがですか。

挨拶を終わります。

幹事報告

若槻八十彦 幹事

◎三条RACより
「カクテル講習会のご案内」
日　時　5月31日(金)　20:00～
会　場　モンツァ
会　費　6,000円　　※締切 5月27日(月)

◎三条RACより
「6月第一例会のご案内」
日　時　6月6日(木)　19:30～
会　場　リサーチコア　4階・異業種交流室
卓　話　杉山幸英会長

◎山﨑ガバナーエレクト事務所より
「拡大地区運営会議のご案内」
日　時　6月15日(土)
受付　13:00～／地区運営会議　14:00～／懇親会 15:50～17:00
会　場　中条グランドホテル

◎鈴木ガバナー事務所より
「鈴木年度 感謝の夕べのご案内」
日　時　6月29日(土)　16:30～18:30
会　場　長岡グランドホテル

◎国際ロータリー日本事務局より
「事務所移転のご案内」
※移転に伴い、5月27日(月)より『奉仕室』の名称を『クラブ・地区支援室』に変更。

◎白根RCより
「創立50周年記念式典ご臨席の御礼」

◎長岡西RCより
「創立30周年記念DVD送付のご案内」

◎山﨑ガバナーエレクト事務所より
「地区協議会報告CD送付のご案内」

◎社会福祉法人 青空福祉会より
「記念誌発刊のお知らせ」

ニコニコBOX

杉山幸英さん
三条祭、燕、加茂の祭も無事終わりました。
本日は小林一夫様卓話有難う御座居ます。

斎藤弘文さん
三条祭りも大勢の市民より参加され、大名行列も立派に行われました。松永会員、笛御苦労様でした。

樺山　仁さん
暑さがしんどくなってきます。お互いに気をつけましょう。
本日の卓話期待しております。

菊池　渉さん
昨夜は、次年度社会奉仕委員会の初会合でした。お陰で、次年度の方針が見えてきました。
早退します。

佐野勝榮さん
先週土・日、1泊2日で邦須岳（茶臼(キャウス)、朝日、三本槍岳）を登って来ました。快晴に恵まれ、絶景でした。

小出子恵出さん
18、19日にいつものメンバーで那須岳（茶臼岳、朝日岳、三本槍岳）に登ってきました。天気に恵まれ、爽やかな登山が出来ました。フラワーガーデン、藤代清治美術館を見学。風采、似合わない事をして来ました。

西山徳芳さん
孫と竹の子掘りに行ってきました。子供は大喜びでした。来年も行きます。

衛藤泰男さん
我家の駐車場を、縄張りにしてるかわいくない野良猫が居ます。日曜日に焼き肉をしてその端切れを恵んでやりました。大変喜んでました。

関川　博さん
三条祭りで社員がローターアクトとして神輿を担ぐとはりきっていましたが、行ってみると後列でした。でも白装束が凛々しく誇りに思いました。

吉井直樹さん
この2週間で同級会が3件あります。楽しみな反面、あこがれの彼女の変貌ぶりが恐ろしいです。お互い様ですが…。
小林様本日の卓話宜しくお願いします。

木村文夫さん
三条祭も終わり、本格的に暑くなってきました。
小林様、卓話ありがとうございます。

内山　晃さん
出張が重なり、なかなか出席できません。
申し訳ありません。

松永一義さん、高橋　司さん、　会田二朗さん、金子俊郎さん、五十嵐昭一さん、歸山　肇さん、伊藤寛一さん、若槻八十彦さん、中林順一さん、船越正夫さん、川瀬康裕さん、　小越憲泰さん、斎藤真澄さん
小林一夫様、本日は卓話ありがとうございます。
お話楽しみにしております。

5月22日分　¥　26,000
今年度累計　¥1,251,000

委員会報告

米山奨学生カウンセラー　関川　博 会員

2013年度　米山奨学生カウンセラーとしてスタートしました。

5月18日土曜日にホテルオークラ新潟にて、「2013年度米山奨学生オリエンテーション」が開催され次年度の奨学生カウンセラーとして参加いたしましたので報告いたします。

当クラブがホストクラブとして受け入れる奨学生はベトナム出身の現在長岡技術科学大学大学院2年生のチャン、ナム、ソン君24歳です。都合が合えば来週の例会から参加させたいと思っておりますが、皆様におかれては温かく迎え入れていただけるようお願い申し上げます。当クラブは何度となく受け入れをしているとのことですので、初経験の私にぜひお力添えとご指導をお願いします。

ソン君には早くロータリーの精神を教えて素晴らしいロータリアンの活動を肌で感じてもらいたいと願っています。それには、私だけでは力不足ですので57人が「お父さん」となっていただけると幸いです。また、当会に入会以来気になっておりましたひとつに、例会で会長の前にある白い箱「米山奨学」と書かれた箱の意味を今回活動に参加させていただきよくわかりました。来期は奨学金が前年度を下回ることから100名減となりました。ロータリアンの善意の募金で成り立っているので残念な結果です。この奨学金制度は他にはないロータリー精神とロータリアンの善意と誇りが象徴されている事業です。ぜひ、募金活動にも積極的に参加したいと思います。今後、カウンセラーとして精一杯努める覚悟ですが万一例会に出られないことがあった時には助けていただけるようお願いします。

最後に、名誉ある米山奨学生カウンセラーに選考いただき感謝申し上げます。

「卓　話」

ゼロからの出発　負けず嫌いの精神を武器に前のめりで仕事に当たる

小林研業　代表取締役　小林一夫 様

――御社の成り立ちについて教えていただけますか？

脱サラしたとき「磨きを3年やれば家が建つ」という話を聞いて、研磨加工の道を目指すことにしました。負けず嫌いな性分で、成功したときに「退職金を元手に使ったくせに」と言われるのが嫌だったので、退職金には手をつけず、知り合いの社長からお金を借りて、資金なし、ノウハウなしの文字通りゼロからのスタートでした。地元の職人を2人見つけて雇い入れ、自分と妻、他に集めた地元の2人と働きながら仕事を教えてもらいました。

また、最初は仕事をもらうのにも苦労しました。でも、人の嫌がる仕事なら意外に転がってるものなんですよね。そこで他のところが嫌がる難しい加工ばかりを手掛けるようになりました。3日と同じ仕事はせず、次から次へと新しい仕事をこなすんです。高い技術を要求されるだけに、最初の3ヵ月は失敗の連続ですよ。ミスがある度、経験者の2人は「明日までに直しておけ」と言って早々に帰ってしまいますが、自分はそこから鉢巻き締め直し、作業を続けました。負けず嫌いなもんで、自分がやったものが直しになると、頭に来るんですよ。それも、職人2人には2年間だけ一緒に働いてもらう約束だったので、その間にある程度の技術は身に着けなければなりません。盗めるワザは盗もうと必死でした。そうやって真剣に向き合っていると、仕事も順調にこなすことができ、全員に給料を支払いながら10ヵ月程で借金を完済できましたし、比較的短い期間で一定の技術を体得することができました。

――経験者2人が去ってからはどうでしたか？

それまで教わっていた自分が、一転して教える立場になりましたね。上手に教える方法を考えたところ、全員が帰ったあとに次の日の工程を自分で一通りやってみる方法を思いつきました。これならコツも分かって教えやすいし、工程の改善もできます。それからはその作業が日課となり、一人で残業して黙々と次の日の作業工程の確認をする毎日が続きました。自分の技術力の向上にもつながりましたし、難度の高い仕事を効率的にこなせるようになり、徐々に名前も売れていきました。

――難しい仕事に絞ったからこそ仕事も獲得できて、技術力も上がり知名度も上がったということですか？

そうです。特に、大手の難しい仕事をこなすと、評判も上がりやすいんですよね。ちなみにアップル社から初めていただいた仕事は、iMacのアームの加

工でした。この部分の製造は当時、新潟のある会社が手掛けており、研磨の加工を燕の研磨工業会へ依頼してきたんです。しかし、繊細な素材ですぐに傷がついてしまうため、やれる人がいなかった。そこでうちでもやってみることになったんです。このとき、この加工のためにTBバフというものを考案しました。バフとは研磨に使う磨き布のことです。それまで使われていたサイザルという植物を使ったバフでは、繊維が硬すぎて表面に傷を残してしまいます。そこで研磨力を損なわず、それでいて傷をつけない繊維を探しました。TBバフは絶大な効果を発揮し、アップル社からは「ぜひ小林研業さんに頼みたい」と言ってもらえました。しかし、生産量が多すぎてうちだけではさばききれなかったので、同業者にバフや工程を教えて、協働で加工をこなしました。その過程でTBバフも広まり、今では多くの研磨屋さんで使われています。

――iMacの加工はどのくらいの期間手掛けられましたか？

1年くらいですね。すぐ中国に移されてしまって…。ですが、そのタイミングで地元のIT企業から寄せられたのが、iPodの研磨です。曲面があって材質が薄い上に800番グレード以上という高い基準を要求されていて、うまくこなせる企業がなかったんです。このグレードというのは研磨処理のレベルをいいます。1000番グレードが鏡と同等の仕上げなので、ほぼそれに近いレベルですね。頼んでくれたIT企業からは「1ヵ月半～2ヶ月は苦労しないとモノにできないよ」と言われました。ところが、やってみたら意外と簡単で、次第にいいものがぽつぽつと出るようになります。5日目くらいには、1個あたり5分の作業で、90数%の比率で基準を満たしたものが生産できるようになりました。

――驚異的なスピードですね。それだけの短期間で高いレベルのものを供給できるようになった秘訣は何ですか？

難しい加工に慣れていたということに加え、5人で取り組んだことが大きかったように思います。燕市では開店休業状態のところも含めると研磨加工を手掛ける事業所が約500軒もあります。しかし実際に携わっている人間は800人ほど。平均するとどこも1人、2人でやっているんです。うちでは5人で作業を進めるわけだから、同じ時間の中でも処理できる数が多いし、流れ作業でやる分、効率もよくなります。また、お互いに競争心が出てくるので、各個人の作業も速くなる。ピークのときは1ヵ月で3～4万個を生産しました。出来のいい製品を短期間で納め続けたおかげで、アップル社内でも名前が知られるようになり、ついにはある日、アップル本社から担当者がわざわざ訪ねてきて、お礼の言葉と「iPodを手掛けたと名乗っていい」というお墨付きをいただきました。

――すごいですね。これまでに諦めたり、技術上の問題から断ったりした仕事はあるんですか？

一つもありません。負けず嫌いですから。熱に弱く加工が難しいアルミや「光沢を出すのは不可能」と言われたマグネシウム、さらに金属に限らず、アクリルやウレタン、エボナイトなどの樹脂も加工してきました。常にやり方を考えながらやってきたので、考えることが苦痛ではないんです。「やったことがないからできない」とは絶対に言わないようにしています。トライして成功したときは「さすが小林研業」と言ってもらえます。その「さすが」が聞きたいために頑張っているようなものですね。

――マスコミでも取り上げられ、2007年には安倍総理の視察を受けたそうですね。

自分がこの業界に入ったとき感じたのが、磨き屋に対する周りの人たちの目線でした。他の加工職人さんに比べると、どうも一段低く見られている。「この社会で金属をいじれば必ず磨きという作業は必要なのに、なぜ下に見られないといけないんだ」と思っていました。

しかしiPodを手掛けたことが知れると、一気にマスコミの注目を浴びるようになりました。自分がテレビに出たり講演に行ったりするようになると、周りの見る目も変わります。そこで気づいたんです。「ああ、これを利用しない手はないな」と。磨き屋のポジションを向上させるにはうってつけのアピールの場だと思い、なるべく取材は断らない姿勢を貫きました。うれしいことに同業者からも最近、「人前でも『俺は磨き屋をやっている』と、胸を張って言えるようになった」と、礼を言われるようになりました。また、自分がメディアに出ることで、燕商工会議所が主催する“磨き屋シンジケート”の宣伝にもなっているようです。おかげ様で「自分も何とか人の役に立てているのかな」と思えています。

――業界全体の地位向上に一役買ったわけですね。ちなみに安倍総理とは何を話されましたか？

当日はマスコミがたくさんいてなかなか話せませんでしたが、翌日わざわざお電話をくださって、一対一で話をしました。その中で「メーカーの開発技術を支えているのは小林さんたちの技術です。技術者の育成をぜひお願いします」と言われて、「じゃあもう一踏ん張りするか」と。

――若手に技術を伝えるにはどうしていますか？

自分の頭で考えさせることを徹底しています。うちでは、入社後1年から1年半くらいの時期に、わざと大きな失敗を経験させるんです。当然手直しのきく仕事に限りますが、全ての工程を任せ、普段は教えない部品一個当たりの作業の単価も、そのときは教えます。そうすると時間ごとの自分の働きを金額で換算し、給与と比較して考えるから、一生懸命やるんです。ところが、ことごとく失敗しますね。でも実はその失敗することに意味があって、そこで立

ち止まって考えることで大抵は一皮も二皮もむけるんですよ。

また、ちょっとした会話でもなるべく自分と従業員の間に線を引かないようにしています。私が考えた方法よりもいいやり方はきっとあるはずなので、どちらが偉いというのをなくして従業員にも考えさせ、その意見を聞くようにしています。常に言って聞かせているのは、「俺が言っている方法がベストじゃない。もっといいやり方が見つかれば、そっちでやれ」ということですね。

今は見積もりについても教えています。お客さんからFAXで送られたきた図面を見て、どういう形のものか頭でイメージできなければ作業の手間もわからないし、工賃なんて想定できません。そこで図面を渡して、「明日までに各自、工賃を考えてこい」と宿題を出します。そうするとやはりそれぞれで額が違う。自分の想定した額よりも安いものには「どう作業すればこの値段でいけるのか」と聞き、高い場合には「何でこんなに高くなるんだ？」と、理由を聞きます。次代の担い手を育てるには、ただ技術を伝えるだけじゃなくて、技術でお金を稼ぐ方法も教え込む必要があるんじゃないかと思っています。

――では最後に、若手の皆さんに期待されることは何ですか？

どんな加工でもできるようになってほしいと思いますね。今は燕市にも同業が多いですが、平均年齢は自分と同じくらいなので、5年、10年経つと様変わりするはずです。仕事の絶対量も減るかもしれませんが、それ以上に磨き屋の数が減る。そうすると産業自体が廃れてしまう恐れがあります。そこで彼ら若手の存在が、ものすごく大きくなるはずです。中国などには生産量で敵わない分、高い技術力で勝負しなければなりません。つまり、産業を生き残らせるには技術を向上させるしかないんですね。ですから、「『俺は磨き屋です』と胸を張って言えるようにならないと生き残れないよ」と口を酸っぱくして言っています。

それから「俺と同じグレードじゃ人並みだ」ということもよく言っています。そう言うと「社長と同じレベルになれば日本国内でもトップでしょう？」と言われますが、それは私と同着です。一人だろうが百人だろうが、同じレベルの人間がいるということに変わりはない。「1cmでも俺を超えないと、1位にはなれないぞ」とよく言っています。そのかいあってか、先日ある取材のインタビューで、教えている子が「将来は世界一の磨き屋になりたい」と答えていました。「日本一の社長を超えるということは、つまりは世界一となることだから」と言ってくれて、涙が出そうなくらいうれしかった。本当にそうなってほしいと願いながら教えています。

三条ロータリークラブゴルフ同好会『第63回大会』

今年初めてのゴルフ同好会のゴルフコンペが、5月2日（木）下田城カントリークラブで開催されました。当日は非常に強い風と多少の雨の中のプレーになり皆様大変ご苦労されましたが、さすが先輩方は動じず堂々とプレーされていました

優　勝	渡辺　勝利
準優勝	小越　憲泰
第３位	杉山　幸英